中国四国ブロック・地球温暖化防止活動推進員合同研修会

持続可能な地域づくりを伝え広げる

取材・記事作成をレッスン

取材の心得ついてレクチャーを受ける

9月5日・6日の2日間、松江駅前の松江勤労者総合福祉センター（愛称、松江テルサ）に中国四国ブロックの地球温暖化防止活動推進員と地球温暖化防止活動推進センター職員74人が参集し、合同研修会を開催しました。広島県からは、8人の推進員が参加しました。

今回は、推進員それぞれが持続可能な地域づくりを伝え広げる人となるために、地域事例を発掘し、伝えることができる力（情報発信力）を培うことを目的とし、さまざまな取り組みに触れ、知り、学び、推進員の交流を通じて、活動の刷新を目指しました。

参加者は、接点の少ない他県の推進員が6人でグループを作って、全体会とワークショップを繰り返しました。

開会式に続くガイダンスで研修のゴールを確認し、次いで、参加者が持ち寄った新聞などの切り抜きで地域の活動を紹介しました。地球温暖化をキーワードにして持ち寄った切り抜きでしたが、介護や福祉、健康、防災、獣害、スポーツ、AIテクノロジー、こどもの居場所など、さまざまな分野の記事が集まりました。

2人一組になり、活動や人物像を聞き出すトレーニングを実施。

ミニレクチャー①は、ファシリテーターの森高一さんから「SDGsと地域循環共生圏、低炭素社会づくり」をテーマに最新情報を学びました。「地域循環共生圏」では、低炭素社会づくりをはじめとする、さまざまな持続可能な社会づくりの取り組みが相互につながっていること、親和性の高い取り組みが連携を強化してさらに発展できることを学びました。

ミニレクチャー②は、山陰中央新報社の清水由紀子さんから「新聞記者が取材・インタビュー・記事を書く時にしていること」と題して、取材の心構えと準備、インタビューで注意すること、記事を書く際に大事にしていることなど、経験を交えて分かりやすく紹介していただきました。取材のときは事前に情報を集めて的確な質問に努めること、インタビューでは印象に残ることはできるだけメモすること、そして、もっとも大切なのは「この記者になら話してもよい、伝えたい！」と思わせる人間力を磨くことだそうです。

この後、「伝えるための準備運動、聞く力、拾う力を試してみよう」というワークショップを実施し、二人一組になって互いに活動や人物像を聞き出すトレーニングを行いました。

作成した記事をお互いに確認して評価

「相手をもっと知りたい」という思いと意思表示、「お互いに共感できるところは何か」という接点を見つけるコミュニケーションを体験しました。

インタビューした推進員の紹介記事を作成する前に、清水さんからミニレクチャー③「記事を書こう」のお話を聞きました。記事になるのは、「知ってほしいこと、知らせたいこと」で「インタビューで喜怒哀楽を感じたこと」です。新聞記事で、見出しと前段で要点を伝え、後段で解説するよう構成します。ここでも、作文の上手下手より「伝えたい気持ち」が大事とのこと。

その後、取材しあった推進員活動を記事にまとめ、指定の原稿用紙に流し込み、関係するSDGsの項目を選択して完成としました。出来あがった原稿は、会場の壁に張り出して全体発表会を行いました。メモ用紙を片手に原稿を見て歩き、見出しや記事の良い点を書きだして貼り付けました。

最後にグループごとに研修の振り返りを行い、全体会でグループで話したことを披露しあって解散しました。

作成した紹介記事は各県センターが持ち帰り、参加した推進員と協働して推敲を進め、中国四国ブロックの推進員活動事例集に仕上げる予定です。

（地域活動支援センター）

瀬戸内海の環境保全について考える

多様な主体で研究や交流広がる

●瀬戸内海研究フォーラム in 広島

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議が主催して、9月5日～6日に広島市西区民文化センターで「瀬戸内海における持続可能な開発目標（SDGs）に向けた里水と里海の連携」と題したフォーラムが開催されました。

貧栄養化の管理について、藻場・干潟の未来について、里水と里海の連携についての3つのセクションで発表と討論が、また58件のポスター発表が行われました。ポスター発表には、当協会から「東広島市における市民参加の里海づくりの取り組み」を報告しました。

フォーラムでは、瀬戸内海のきれいとゆたかについて、藻場や干潟の役割、森里川海のつながりなどについて多方面からの研究報告がなされ、瀬戸内海の現状と、これからの在り方について多様な視点で意見交流する場となりました。

●瀬戸内海環境保全地区組織会議

瀬戸内海環境保全地区組織会議は、9月27日に山口市で「瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会」を開催し、瀬戸内海の沿岸の府県市で活動する住民団体のリーダー約100人が参加しました。この研修会は、瀬戸内海の環境について考え、住民でできる環境保全対策を推進していくことをねらいに毎年開催しています。

当日は、新山口駅前の会場で、山口県知事の村岡嗣政様からご祝辞をいただき、活動功労者（団体）表彰、講演、体験交流・意見交流を行いました。

堂々川ホタル同好会の土肥氏

今年度の活動功労者（団体）表彰は、山口県、広島県、北九州市から4団体が表彰され、広島県からは、福山市で堂々川周辺の環境整備を行っている『堂々川ホタル同好会』が表彰されました。

講演は、放送大学岡山学習センターの磯部作先生が「瀬戸内海の海ゴミ問題の状況と解決への課題」と題し、海ごみの現状、原因など分かりやすくお話してくださいました。

その後、体験交流・意見交流は、表彰を受けた4団体が日ごろの活動などについて発表し、参加者からの質問に答えました。

来年度は、福岡県で開催を予定しています。

（地域活動支援センター）